

## 令和3年度 長田小学校学校評価結果についての考察

### (保護者評価)

#### ○評価の高い項目

- ・学校の様子を伝えている 97.5%
- ・いじめはいけない 97.1%
- ・学校のきまりを守る 96.9%

普段から担任の先生方の指導が児童へ浸透し結果に反映されていると思われる。学校のきまりを守ることやいじめがいけないと認識し、家庭でも保護者にきちんと伝えていることがうかがえる。また、学校だより、学年だより等を家庭に持ち帰り、保護者に目を通していただいている結果が反映している。今後も継続していきたい。

#### ●評価の低い項目

- ・読書習慣 46.7%
- ・授業の様子を話す 67.4%
- ・すききらいなく食べる 69.5%
- ・家庭で勉強 70.3%
- ・先生からほめられる 75.2%
- ・電話連絡 78.0%

読書習慣については、図書館の本を持ち返していない学年もあるため、評価が低く、家庭での読書習慣に課題がある。授業の様子を家庭で話す機会を設けるためにも、学年だよりやおたより等で授業の様子を伝えていく。食育や家庭での勉強について、家庭への意識を高めるための手立てを考えていく必要がある。先生からほめられる経験については、教師も1日に1回以上児童をほめる意識で取り組んでいく必要がある。電話連絡に関しては、「欠席した時」と限定してしまったために、誤解が生じたようである。今後は文言を修正して項目を変更していく。

### (児童評価)

#### ○評価の高い項目

- ・学校の様子を伝えている 93.3%
- ・いじめの相談 91.4%
- ・安全な行動 91.1%

普段から担任の先生方の指導が児童へ浸透し結果に反映されていると思われる。安全に行動することやいじめがいけないと認識し、学校生活を送っていることがうかがえる。また、学校だより、学年だより等を家庭に持ち帰り、保護者に目を通していただいている結果が反映している。今後も継続していきたい。

#### ●評価の低い項目

- ・すききらいなく食べる 73.6%
- ・生活リズムの定着 74.2%
- ・読書 75.1%
- ・あいさつ 79.7%

家庭での状況と同じように、食育について家庭と連携し取り組んでいく必要がある。学校における読書時間の確保が課題である。隙間時間等で読書に親しむ時間を見つけ、声かけをしていく。生活リズム、あいさつについても家庭に協力を仰ぎつつ、学校でのあいさつ運動や生活リズムの定着呼びかけを行っていく。

### (教師評価)

教師の評価については、年間2回実施し、前期での評価から後期にどのように変容したのを見取った。教師評価では、指導方法についての項目、家庭・地域との連携について課題が見られた。コロナ禍の中で活動や連携自体が難しかったためと思われる。次年度は、評価結果を意識して、取り組みの計画を立てていきたい。